

スキー・パトロール

SKI・PATROL

全日本スキー連盟公認パトロール
連絡協議会々報

第14号
昭和59年11月20日発行

事務連絡所
東京都杉並区和田1-22-2
蒲池直樹方々 (03)380-6063
会費等の送金は、郵便振替口座
東京3-70754 全日本スキー連盟
公認パトロール連絡協議会



連絡協議会の総会と あり方について考える。

千葉 純司

残雪の八幡平での第14回S A Jパトロール連絡協議会を終えて、総会について又連絡協議会のあり方について、一、二感じることがあったので述べさせていたがたい。

総会は天気にも恵まれ、雪上における実技研修、東八幡平スキー場の隊長吉田勝美氏、S A J技術員の岡崎力氏による各自のスノーポート搬送の実演でこの雪上の実技研修はNHKテレビいわて630でつぶさに報道された。

総会をかね久し振りの雪上実技研修はつつがなく終了した。旧交をあたためるのみでなく総会参加の皆さんにスキーを楽しむてもらい、それぞれ何かを得て帰っていただけたのではないかと思います。

さて、今回は節目ともなる第15回総会となるわけだが、ここで総会の開催について、又協議会のあり方について熟慮しなければいけないと思う。今回の総会はまずまずの出席数であった

と思うが、千名を越える会員を擁しながら毎回10にも満たない出席数の総会はどういうことかと指摘されても云い返す言葉もない状態であろう。

はるばる北陸から馳せ参じる同士がある時、八幡平で開催というのに、近県からの参加者が少ないのはどういふことなのだろうか。

協議会の発足時を思い起こす時、創立総会は9期中川義和氏のお世話を得て、箱根の品川林間学園で、当時のS A J傷対委員長の園山氏を初めとし、西沢宮本、小森(日赤)の諸先生方諸先輩をお迎えして熱氣溢れるなかで開催された。

協議会発足の趣旨は、親睦にあったと思うが、現在この多くの会員を抱えた大組織に発展した上は、そのみでなくもう一歩進んだあり方を考えるべきだと思う。

何かテーマをもった調査研究をするとか、実験等を行うとか連絡協議会の団体でなければ出来ない何かがある筈だ。

若い同士、若いエネルギーが今後の連絡協議会の進むべき道を切り拓いていくことを期待して筆をおく。

(副会長)

第14回総会 議事録要目

日時 昭和59年5月10日13時
場所 岩手県岩手郡松尾村
八幡平観光ホテル

来賓祝辞
松尾村長 石羽根 重志氏
八幡平観光ホテル常務
青木 正氏

一 開会の辞 脇田喜久雄副会長

一 会長挨拶 草薙俊一会長
皆さん大変ご苦労様です。総会の挨拶に先立ち、昨年仲間が多くこの世を去っているの、黙禱をささげてご冥福を祈りたい。全員起立、黙禱。

国立公園の八幡平で、第14回総会を開催できますことをお礼申し上げます。この総会を期に更に仲間意識を拡大し一千万人スキーヤーの安全を計るため、為すべき事が山積しています。皆さんのご意見を伺い、よりよい明日への発展につながるようご協議願います。

なお、昭和60年3月には日本において、パトロール国際会議が開催されます。縁の下の力持的「パトロール」が力を合せて、盛会に行われる様ご協力を願うとともに、国際会議の成功と世界のパトロール前進の

一助となるべく、努力を願いたい。今日は暫く振りに再会した仲間と、多めに語り合ってください。

二 岩手県スキー連盟会長 高松正氏

全国から八幡平にお集り下さいまして有難うございます。岩手県スキー連盟は、皆様を心より歓迎いたします。

さて、私はスキー傷害の流れが時代とともに変化してきた事を感じます。昭和の初め、スキーの試験をうけた当時は、転んでもスキーが外れ、長いスキーをはいても骨折はなかった。次はカンダハの時代で踵が少しあがつたが、この頃から骨折が見られるようになった。ところが、段々前傾姿勢（ラブリーン）が

出始めてから骨折が増え、踵を固定するようになってから更に多くなってきた。現在、用具が進歩し、ゲレンデが整備されて骨折は少なくなってきた。時代が変わったといえ、怪我、保険、補償といったような問題が出てきます。

冷たい人間関係とはいえず、相手に傷をおわせた場合のことも考えなければならぬ時代でしょう。

一 議長選任
一千万スキーヤーをささえる皆様も、時代とともにスキーのあり方、外傷、又社会の仕組みより一層の精進を希望します。

二 議長選任

会則により、議長の選任方法について議場にはかる。議長に副会長井口真隆氏を選任。

一 議事録署名人選任並に書記指名。

議長録署名人
副会長 片倉 善文氏
岩手県 佐々木茂喜氏
書記

岩手県 吉田 節子
東京都 神谷 重子

一 新入会員紹介

一 議事
昭和59年度事業報告の承認について（安井 久副幹事長）
1、会員名簿の作成
2、パトロール隊名簿の作成
3、パトロールの資質向上
4、協議会英文名の決定
5、スキー傷害保険加入へのPR活動

昭和59年度決算報告の承認について

（中村 光一郎幹事）
（別紙参照）

会計監査報告

春原氏、岡田氏より詳細に監査したが、内容は正確かつ適正であった旨報告された。



スポーツ科学の勝利だ。デザートスキーウェア。

DESCENTE

NIHARAJEVO OLYMPIC SWISS RANGER
MAX JULEN SWISS SG TEAM



世界一着。

昭和60年度事業計画の承認に
ついて (安井久副幹事長)

1、会員名簿の配布

(昭和59年度会費納入者のみ)

2、パトロール隊名簿の作成

3、傷害調査日誌の統一化

4、スキー傷害居保険並びに
賠償保険加入へのPR

5、会報の発行 (No.14・15)

6、ラウスビー、ワッペン、
ネームプレート、Tシャツ
の作成配布

7、パトロール活動のPR

8、新ユニフォームの作成

9、新ユニフォームの作成

10、新ユニフォームの作成

昭和60年度予算案の承認に
ついて (中村 光一郎幹事)

(別紙 参照)

討議

議長 60年度についての質疑

Q 会費未納者の対策について

A 年会費千円は安いので、是
非納めて下さい。納入者と
未納者を同一に扱うのはど
うかと考え、今回納入者の
み会報を配布する。尚、会
員除名と云ったことは考え
ていないので会員に連絡を
して会費を納めるよう働き
かけて下さい。

Q 新ユニフォームについて

A 協議会として、作るか作ら
ないかは皆さんで協議して

ないかは皆さんで協議して



下さい。時代の流れに伴い、
かえてゆかざるを得ない物
であり、各地でそれぞれの
ユニフォームを着ているが、
過去の経過から、統一する
ことは難しい点が多いよう
に思う。

青森 昨年ユニフォームを作った。
(試着あり)

長野 色の統一をしている。

議長 種々意見がありました。が
次の点を踏まえていずれ
事務局から連絡します。

1 協議会として、ユニフォー
ムを作ることで取り進める。

2 統一ユニフォームか？色の
限定か？等について

3 地域格差に伴う生地を選定
について

4 SAJの承認を得たユニフ
ォームが必要か？

Q 保険について

A スキーヤーがスキー場に來
る前に加入してもらおうよう
PRにつとめたい。

閉会の辞 千葉純司副会長

スキーの出来る会場をとい
うことで当岩手で総会を開
催することができ、感謝し
ております。皆様方のご協
力のもとに、会の発展を願
い閉会とします。

ビンディングはいま、マルチコントロールシステムを得てスーパーセーフティになった。

安全を確信できてこそもてるテクニックも存分に出しされる。だからこそ、スキーにおいて最も多く最も危険な“複合転倒”への対策として、サロモンは、あの多方向コントロール機構を開発。そしていま、さらに高度な安全と機能の追求から独創的な「マルチコントロールシステム」を開発した。体験して欲しい。このレスポンス。

SALOMON

